

福富地区の守り神

福富地区にある妙見神社は、古くから集落の守護神としてあがめられてきました。鎌倉時代末期から室町時代初期の頃、地頭(村役人)の小山氏の庶子(長男以外の男子)がこの場所に館を構えていたと伝えられ、小山庶子家が氏神として祭り、豊作を祈願したのが始まりとされています。

一説によると、妙見神社の祭神は女性の神様ともいわれています。「亡くなったばあちゃんから聞いた話ばってん、妙見神社の女神様は惣領神社に嫁らしたばってん、気が強かったけん離婚して戻ってこらした

て。だけん昔は、この辺りの娘に縁談話が来たらすぐに嫁に出したという話」とユニークな言い伝えを教えてくださいましたのは富田セツコさん(81)です。そして珍しいことに、他の神社の境内には祭りの際に子ども相撲を奉納する土俵がこしらえてありますが、妙見神社にはありません。ゆえに、女性の神様だから、という説もうなずける気がします。

妙見神社秋季例大祭

毎年、福富地区では10月18日に妙見神社秋季例大祭が行われます。

「この祭りは昔から、集落の人たちによつて大切に守り継がれてきた伝統文化です。毎年、宮座の座主

が決められると祭りの準備が進められます」と話すのは、福富区長の福島俊美さん(70)です。

祭りの当日は朝の6時から、境内でしめ縄が作られました。男性数人で作り上げる注連縄は意外と大きく、作り手は汗びっしょり。しばらくすると、4本のしめ縄が完成しました。しめ縄はまず鳥居と拝殿に飾られ、この地域に幕末から伝わる「福富雨乞い太鼓」にも飾り付けられます。残りの1本は、座主の家の玄関に飾られました。

午後3時からには神殿や拝殿の掃除、供え物の飾り付けがなされ、午後6時に神事が執り行われました。夜の帳が下りた頃、拝殿で神楽舞が奉納されます。踊り手は「益城神

楽子ども教室」のメンバーで、広崎地区に住む橋本優作君(16)と、惣領地区に住む本田心乃さん(8)です。楽に合わせて踊る二人の厳かな神楽舞は、見る人の心を魅了しました。



祭りを進行した福富区長の福島さん

地蔵堂で女子会

福富地区と古閑地区の間を流れる妙見川。川伝いに上って歩いていくと、十字路の北西の角に「古閑地藏堂第七番札所」があります。

この場所は熊本城下へと通じる「木山往還」だったそうで、村の入り口となる場所に地藏堂が建立されたと伝えられています。

地藏堂の中には、2体の座像と仏木像が祭られています。「毎月、地区の方々によつて掃除がされ、皆さんが大切に行っている場所です」と話すのは古閑区長の藤山英利さん(75)です。

おやおや、お堂から何やら楽しそうな話し声が聞こえて来ました。集まっていたのは古閑地区に住む6



新しいしめ縄が飾られた妙見神社



「剣の舞」などが奉納された後、舞手2人による「願詞の舞」が奉納されます



祭りを支えた地区の皆さん。左から豊田良富さん(73)、今年座主の富田祐一さん(55)、富田信一さん(75)